

北陸新幹線 金沢駅開業に向けた対策
に関する提言

平成23年11月24日

福井商工会議所

北陸新幹線は平成27年3月、金沢駅開業が予定されている。福井駅の開業が未確定な中で、金沢駅の開業は、産業面や観光面などにおいて福井の経済に様々な影響を及ぼす。事実、石川・富山両県では新幹線開業に向けて、官民さまざまなプロジェクトが進められており、すでに本県との格差が生じている。このまま何の対策もとらず金沢駅開業を迎えれば、石川・富山両県との地域間格差は決定的なものとなる。そのために、効果的かつスピード感を持った対策を講じていくことが必要である。

目前に迫った北陸新幹線の金沢駅開業により、消費や企業の金沢への流出が起こる可能性が高く、本県経済にとってピンチとなるが、これをチャンスに転換できる積極的な対策を講じるとともに、1日も早く福井県内延伸につながることを強く期待して、下記の通り提言する。

記

1. 《全体を通じて》

北陸新幹線の金沢駅開業によって多方面にわたり影響が発生することが予想されるが、県内企業や県民は情報不足もあり危機意識が非常に乏しい。有効な対策を打つには正確な情報提供を行い、危機意識と積極的対策への機運醸成に取り組むべきである。

①シンポジウム開催及び広報活動による県民への情報提供と危機意識の醸成

シンポジウムの開催や各種の広報活動などを通して、北陸新幹線の金沢駅開業に対する情報提供を県内企業や県民に広く行い、危機意識を醸成していくことによって、対策を講じていく気運を高めるべきである。

②民間プロジェクトの支援

金沢駅開業への対策の取り組みを県内の大きな流れとするために、行政が基本方針を定め、金沢駅開業対策の民間プロジェクトの実践を公募し、効果的なプロジェクトには重点的に支援を行う体制を整えるべきである。

2. 《産業について》

北陸新幹線の開業により、金沢は当面、北陸新幹線の終着駅となるとともに、首都圏との時間が大幅に短縮される。その結果、金沢に企業の支店機能が集約されるとともに有名店や大型店などの進出が進むなど、都市としての拠点性がこれまで以上に高まり、隣接する本県の産業および消費が流出する可能性が高い。こうした産業や消費の流出を食い止めるため、本県の企業の積極的な取り組みを支援するとともに、戦略的な産業誘致を展開すべきである。

①モデル的な新たな販売促進・顧客確保策への支援

商店街の枠を超えた店舗同士の連携や IT を活用した販売促進など、意識の高い事業者が行うモデル的な新たな取り組みに対し支援を行い、魅力的な店舗と集客イベントの開発・高度化を図るべきである。

②知識集約産業の誘致・集積

産業の流出を食い止め、さらに産業の高度化を図るためには、新たな分野の産業を誘致・育成していく必要がある。今後、我が国が担うべき分野は研究施設や開発部門であり、本県においても戦略的に研究・開発を担う知識集約産業の誘致や集積を行うべきである。

3. 《観光について》

北陸新幹線の金沢駅開業により、北陸三県への観光入込は大幅に増えるが、一方で福井県への観光入込は石川・富山県と比較すると限定的である。したがって、本県としては、金沢駅で下車した観光客をいかに福井に引き込むかが課題となってくる。そのためには戦略的な観光施策を立案し関係機関とともに推進するべきである。

①デスティネーションキャンペーンなど北陸三県連携による広域的な観光誘客

外部からの観光客は福井・石川・富山三県をまとめて「北陸地域」として認識している。そのため石川・富山と連携しながら北陸地域として広域な展開をするべきである。特に、北陸新幹線金沢駅開業に合わせ、三県でデスティネーションキャンペーンに取り組むとともに、隣接する石川県の観光地と連携したテーマルートの策定に取り組むべきである。

②2次・3次交通の整備

金沢駅に下車した観光客を福井に引き込むためには、そこからの2次交通さらにはその先の3次交通の整備が必要不可欠である。金沢駅から県内へのバス路線の充実やレンタカー乗り捨て補助などにより県内への引き込みの増加を図るとともに、県内観光地へのアクセス向上や観光地同士のネットワーク向上にも取り組むべきである。

③戦略的な観光施策の展開

他県にはない「恐竜」「食」といった福井の強みとなる資源を磨き上げるとともに、「住みやすさ」「健康長寿」「教育」といった広範な視点での福井の良さもアピールすべきである。また、キャラクターの活用、メディアでの短期集中発信といったこれまでとは違った手段を駆使して福井の魅力を効果的に伝えるなど、観光施策を展開する際には戦略的な取り組みを行う必要がある。こうした全県的な観光戦略とともに、各観光地では旅行会社OBなど観光のプロを活用した観光地個別の魅力発信やおもてなし向上にも取り組むべきである。

4. 《公共交通（交通アクセス）について》

北陸新幹線の金沢駅開業により、福井への交通体系やアクセスは大きく変化する。福井にとってはメリット・デメリット両面あるが、必要な対策を講じていくことによって、最大限のメリットを享受し、デメリットを最小限に抑えるよう関係機関へのはたらきかけを行うべきである。

①金沢駅乗り換えの利便性確保

金沢駅開業によって、福井と首都圏の移動は金沢経由が大幅に増加する。それに対応し、新幹線と北陸線との接続や誘導等、乗り換えの利便性が最大になるようJR等関係機関に要請していくべきである。

②北陸新幹線・東海道新幹線の2ルート選択性の確保

北陸新幹線の金沢駅開業による福井のメリットとして、福井首都圏間の移動が北陸新幹線・東海道新幹線の2ルートできることが挙げられる。したがって、この2ルートどちらの選択も可能となるよう、料金・接続面で両ルートが同レベルになるようにJR等関係機関へはたらきかけるべきである。

③小松羽田便の便数確保

小松羽田便に関しては、石川県の乗客が大幅に新幹線へとシフトすることが想定される中、福井県内の乗客の利便性を確保し、減便等の影響を極力少なくするように注力すべきである。

5. 《まちづくりについて》

福井市の中心市街地は県都の玄関口であり、県外客が最初に目にする福井の印象となる。ここに魅力と賑わいを生み出すことは、すなわち県の顔を作り出すことにつながる。したがって、金沢駅開業のみならず将来の福井駅の開業をも見据えて、県都福井の顔となる中心市街地のハード整備と賑わいの創出に取り組む必要がある。

①西口再開発ビル早期整備や駅前広場の確保

福井駅の西口に位置する再開発ビルや駅前広場は、福井市だけでなく県の顔とも位置づけられるシンボリックな施設である。早期整備を進め、福井駅に降り立った県外客に福井を印象付ける景観形成を図るべきである。

②長期的視点での街のビジョン構築（中心市街地の公共施設の再配置）

長期的視点での、公共施設の再配置も含めた街の方向性（ビジョン）の検討を開始し、行政が主体となり推進するべきである。

③賑わいと回遊性を持たせたまちづくりの推進

中心市街地は歴史・文化・商業などさまざまなスポットを有している。魅力ある街を形成するためには、こうしたスポットを有機的に結び付けることにより、来街者が点としてではなく面として回遊し賑わうよう整備を進めることが肝要である。

平成23年11月24日

福井県知事
西川 一誠 様

福井商工会議所
会頭 川田 達男